



## 38区市町が結束！大都市東京の農地・農業を守ります！ 第13回 都市農地保全自治体フォーラムを開催

と き 2月2日(日)

と ころ フォーラム : 練馬文化センター 小ホール(練馬1-17-37)  
農産物等即売会 : 区民・産業プラザ ココネリホール(練馬1-17-1)

2日、練馬区において、都市農地保全推進自治体協議会(会長:前川 耀男練馬区長)が東京都との共催で「第13回都市農地保全自治体フォーラム」を開催した。

同協議会は、市街化区域内農地のある都内38の自治体(10区、26市、2町)で構成。都市農地の役割や、保全していくことの大切さを周知し、都市農業・農地の重要性について考えてもらうのがフォーラムの目的。この日は、都民、農業者など約350人が来場した。

第一部では、協議会によるフォーラム宣言が行われ、「大都市東京の農地がまさに重要な転換期である今、大都市東京の農地・農業の保全に向けて全力で行動していく」と、力強く宣言した。

第二部では、昨年練馬区が開催した世界都市農業サミットで座長を務めた、武蔵大学名誉教授の後藤光蔵氏と、果樹生産で活躍する区内農業者の荘埜晃一氏が、都市農業の展望と魅力について講演した。

また、ココネリ3階のココネリホールでは、都内9の農業協同組合の協力により、東京都内産の農産物・加工品の販売と紹介が行われ、多くの来場者が訪れていた。



▲第二部 講演の様子



▲農産物等即売会の様子

### 【都市農地保全自治体フォーラムとは】(主催:都市農地保全推進自治体協議会・東京都)

都市部の農地は、新鮮な農作物を供給するほか、良好な都市環境の保全や貴重な防災空間の確保など、多くの役割を担っている。さらに、住民が農に触れる憩いの場となるなど、多面的機能を有している。

こうしたことから都市住民の暮らしにとって、都市農地は失ってはならない大切な財産であり、同フォーラムでは都市農地の重要な役割や、保全していくことの重要性などを広く参加者に訴えた。

来賓として、農林水産省、国土交通省が出席し、農業関係団体から全国農業会議所、全国農業協同組合中央会、東京都農業会議および東京都農業協同組合中央会が協賛した。

### 【都市農地保全推進自治体協議会とは】

都市農地の保全などに取り組む自治体連携組織。平成20年に練馬区が呼びかけて発足。会長は前川耀男練馬区長。市街化区域内農地のある都内38の自治体が会員となっている。

協議会では、毎年フォーラムを開催し、都市農地の重要性を周知していくとともに、平成20年11月以降、農林水産省と国土交通省の各大臣宛てに都市農地の保全に関する要望書を提出している。